

## 地温を上げる農業 イチゴのハウス栽培の途中経過

秋に半年をかけて有機の堆肥を作る。

半年後、熟成した堆肥を取り出し、肥料とする。

長雨によりハウスの完成が遅れたため、10月16日より作業開始。

まず長さ30mのハウス内に横幅50cm、深さ30cm、長さ28m程の溝を4本掘った。

その溝の中に生の馬糞を20cmの厚さに入れ、その上にGPのボカシを10cmの厚さ入れる。

その上から溝1本当たり100Lの5倍希釈のGP草エキスをかけ、土をかけ戻して高畝(うね)を作った。

その高畝に畝1本当たり50Lの草エキス(5倍希釈)をかけて、黒の穴なしマルチをかけた。

マルチに30cmごとの穴を2列あけ、草エキスでイチゴの苗の根の部分の洗い、定植。

10月28日より定植作業を開始し、30日に完了。

苗が根付くように1週間は1日3回水やりを行った。

土中の温度が上がっているかどうか、1か月間毎朝、気温・ハウス内室温・ハウス内地温を測定。

地温は19~22度を継続している。(別紙参照)

鳩山町の最低気温は-5℃まで下がったが、ハウス内の地温が高いので、イチゴは元気に成長している。

12月2日、今後の気温低下を考慮し、イチゴにトンネルをかけた



トンネルをかける前のハウス内の様子